

日本語教育の現状と課題  
～日本語教育・学習体制をいかに整備すべきか～  
アンケート結果

開催日時：2021年8月8日(日)13:30～15:30

参加者：講師含み29名 アンケート回答者：23名

注：5～7の回答は「である調」とし、一部の文章を簡潔にした。

1. 年代をお伺いします。  
40代：1名 50代：3名 60代：5名 70代：10名 80歳以上：4名
2. 大学女性協会の会員ですか  
はい：21名 いいえ：2名
3. 3. 会員の方は支部名をご記入ください。  
茨城：3名 東京：5名 神奈川：5名 静岡：2名 京都：3名 奈良：2名 長崎：1名
4. 勉強会の内容はいかがでしたか？  
とても興味深かった：20名 やや興味深かった：1名 ふつう：2名
5. 勉強会の内容で印象に残ったことはどんなことですか？
  - \* 「公認日本語教師資格」やその制度化に言及している回答 7件
    - ・公認日本語教師について、国家資格となる動きがあるとの話、とても心強く感じた。ある時期はボランティアも必要だが、どの子にもできる限り平等に指導が行き届く制度が必要だし、教師として働く人への給料がきちんと支払われることが大切
    - ・公認日本語教員資格が制度化されるということ、そして、市民団体（協会）が行政に働きかければ予算がつくということ、つまり市民が声をあげることの大切さを再認識
    - ・日本語教師資格の公認が検討されており、来年度にも国会に上程され法的体制が整備されると知ったこと。
  - \* 「継承語」に関する回答 5件
    - ・継承語の重要性についての話。物事を考えるもとなる言語は、やはり日常家庭で使われる母語で、それを大切にすること。浜松市ブラジル人協会の放課後の二言語による教育に感動した。
    - ・共通語と継承語との双方に対応する姿勢
    - ・多くの海外在留邦人の子女が、週末に日本語の補習校で教育を受けているように、日本に生活する外国人の子供たちにも母国語（継承語）の補習が受けられるシステムが充実すると良い。
    - ・継承語についての内容、母語・母文化の重要性についてや言語教育の世界で起こっている変化の項目の1つ教育観が印象に残った。
  - \* 大学の教育課程やカリキュラムに関連して
    - ・大学の教育課程で日本語教育の資格が別途とれること、ボランティアで行われている日本語教育の処遇についてなど
    - ・文科省が日本語教育のためのカリキュラムを大学教育の中に定めたり、日本語教師の質の向上のために国家試験の制度を設けることになる、という話は、大変前向きなこととして、希望が

持てた。

- ・大学の教員養成課程において、特別の教育課程として日本語教育の課程が設けられ、日本語教育の知識を持った教員が育っていることを、とても頼もしく感じた。
- ・生徒児童への日本語指導の理想的な担い手について、また特別の教育課程について伺う事ができ、大変勉強になった。

\*日本語教育についての国の最新動向がわかったこと

\*国が、色々な施策を提示した場合、それに反応するか否かが予算に影響するという話。関係機関の意識の低さが問題だとするなら、何らかの形で働きかける必要がある。

\*法制度の整備、自治体の教育委員会などの整備、日本語教師の質を高めるために何が必要かなど。

\*日本語教育関係者の社会的使命

\*日本語（＝言語）教育の使命は「多文化共生社会への案内」と明確に示し、学習支援のポイントを、真のコミュニケーションスキルの習得、相対的社会認知の育成、偏見・差別からの脱却、グローバル・シティズンシップ入門と、具体的に挙げていただいたこと。日本語教育は日本における英語教育にも通じる大切な目標だと思う。

\*「言語教育の世界で起きている変化」は全ての教育現場で加速していったほしい変化

\*すべての学校で、子どもの日本語教育が「特別」なことではなく、「あたりまえ」のこととして教師が行い、日本語教育は専門知識を持つプロが行うことが「常識」の世の中になってほしい。

\*日本語教育が日本に来る人への「支援」ではなく、むしろ日本人の眼を広く世界に開くものだという視点

\*「日本語を教えること〔目的〕が、もう一人の日本人をつくること」とは違う、という指摘

\*世界の75%程度の国のうちでだが、日本語学習者数が、どの国が第何位かを提示したのはよい。

\*世界中の言語のなかで、日本語は context(※)が第1位の言語である。更に、例えば日本語の記載は、読み方が多数ある漢字と、平仮名・片仮名と多数でもあり、言語の面倒さも非常に高い言語であるので、各国で多数の国民対象ではなくても、本当に日本語教育をしているとすると驚きである。

(※) Context は、文脈・雰囲気・状況などを意味している。

6. 今後の日本語教育に関し、コメントがあればお書きください。

\*人材や資金不足に関連したコメント

- ・現在、小中学校で非常勤講師として日本語指導を行っている。今回の勉強会で話題になった日本語指導者の処遇の問題、自治体によるばらつき、子どもたちの継承語としての母語の問題等、とても共感できた。
- ・子どもの日本語指導の施策が進まず、推進力のあるボランティア等の組織もあまりないところもある。現在の制度、環境（教員の意識含む）の中では支援から漏れてしまう子どもがいる。現場レベルでは何とかしたいと感じていても、結局は「一部の子どもの問題」であり、「全体優先」とされてしまい、前に進めることができない現状があると思う。上層部の意識改革はなかなか進まない。全国的に同じような状況の自治体はとても多いのではないかと思う。さまざまな手段、ルートから声を届けたり、影響力のある方から発言していただくことは大切なことだと思う。そのためにこの問題について多くの人に知っていただくことの必要性を感じている。

- ・調査現場で対応している先生方が頑張っているのはよく解ったが、人材、資金不足を実感。さらに後押しの必要を感じる。
- ・夜間中学校についての国の取り組みについて少し話があったが、現状は各都道府県に1校を目標とのこと。中学生が日本語学習のために通うには地理的に限界があるのではと心配。

\*指導者養成や学校制度に関連したコメント

- ・外国にルーツのある住民と多文化共生の取り組みについて、日本の現状を西原先生の話でよく把握できた。特に小中学生の義務教育の中では公認日本語教師は働かないとのことだが、教員免許取得の中でこの資格も取れるようになってほしい。義務教育の中でこれからは必要なことではないかと思う。近い未来のグローバルな社会に向けて、日本語教師に求める社会的使命は日本の教育関係者すべてに共通するものでもあり、日本の教育にしっかり反映できるような取り組みをしなくてはと思う。
- ・教員養成課程でオプションとして日本語教育について学べるが、今、教員の世界はブラック企業と言われている。提言1（※）を是非促進してほしいと願っている。

（※）提言1. 日本語を教えることのできる支援員の小中学校への配置を促進すること

- ・地域社会に於ける日本語教育者の日本語指導ボランティアの養成講座も必要だと思う。
- ・小中学校における日本語教育、継承語教育をいかに、公的責任で実施するか。
- ・学校における日本語教育の拡充

\*多文化共生に関連したコメント

- ・日本語教育は文化そのもの、多文化共生の最前線だ。教えることで学ぶことが多々ある。より多くの若ものにチャレンジしてほしい分野だと思う。福井県の事例のようにならないよう、一人ひとりが普段から共生の意味を考え、実行していきたい。
- ・多様な文化を背景にもつ子供や若者を対象として教育することは、日本の一斉画一的な教育スタイルから脱するための、チャンスになると思う。一人一人に細やかなまなざしを向けていく教師の努力が必要だが、その努力の姿勢が周りの子供たちに与える波及効果は大きいと思う。
- ・日本語を教え、学ぶという文脈に限らず、多文化共生とは、他者との文化的差異を受入れ、自らの文化を客観視し、良い点を大切に、悪い点に気づき、直すよう努めることであろう、と感じた。

\*地域における外国人との共生、特に技能実習生との共生における課題、治安問題、健康保険や失業保険などの手当てをすることによる地方自治体財政の逼迫、移住先との価値観との共有等。

\*「行政がダメだ、遅れている」と、ほとんど思い込んでいたが、自分たち市民がやってゆくべきだということを示された。さすが専門家の話だったと、深い感銘を受けた

\*もともと課題として考えられている事柄の範囲が広すぎ、具体的なアクションを起こすことがむずかしいことがよくわかってきた。コロナ禍で外国にルーツのある人が情報弱者だけでなく社会的弱者になっている可能性が高いことが懸念される。コロナ禍中は特に学習言語と生活言語の両方に目を向ける必要がある時期かと思う。

\*アンケート調査担当の教育委員会の方が中学の国語担当の先生だった。話の中で「学科の中では、国語が一番難しいですね」と言われたことを思い出し、日本語教育にも細やかな指導が必要と改めて思った。

\*ビジネス界などでは民間の日本語教師が素晴らしくて、申し訳ないが自治体の日本語教師の比ではない。また、外語大などでも素晴らしい日本語教師がおられる。そのような日本語教師の方々

に日本語教師・ボランティアの方々の研修をしていただくとよいと思う。それは直接子供たちへの日本語を教えるにしても現場では役に立たないのではないかと思わず、日本語教育の実際、意義を確認するのに役立つと思う。

- \*日本語は世界の言語の中で Context (※) が世界第1位で高く、他の言語は概ね Context が低い。従って、日本語だけでなく、日本語の高い Context の雰囲気も教えるのが正確な言語の講義だと考えるが、実際にはどうしているのか？

(※) Context は、文脈・雰囲気・状況などを意味している。

- \*「外国にルーツのある子ども」といってもいろいろな背景があるので、誰一人とり残さないためにもきめ細やかな取り組みが必要と思う。
- \*本日、聞いた話を地元の国際交流ラウンジの会合で話をしたいと思う。
- \*豊富な資料でお話頂いたので、現状はよく分かったが、具体的な話が少なかったのであまり興味がわかなかった。次回の講師での具体的な話を期待

7. 「外国にルーツのある子どもの教育」に関して、今後の勉強会で取り上げてほしいテーマや講師として招聘してほしい方があればお書きください。

- \*多国籍の住民が溶け込んで地域社会を動かしている事例など教えて欲しい。
- \*外国にルーツを持つ児童生徒の散在地域であっても、地域や学校全体で取り組むことの大切さをどのように伝えていくといいのか、また必要性を理解してもらうためには、どのように巻き込んでいくといいのか、実践された方の話
- \*コロナ禍中のオンライン教育で、外国にルーツのある子どもへの配慮がどのようにおこなわれているのか、集住地域とそうでない地域での対応の差などをご存じの方の話
- \*現場で教えている人たちの事例
- \*問題点に取組み、それを解決できた教育現場や自治体などの担当者的話
- \*夜間中学校 継承言語の保障のための FLT (※) の義務教育への投入

(※) FLT (Foreign Language Teacher) : 英語のみならず外国語で教える教員  
ALT (Assistant Language Teacher) : 外国語指導助手

- \*ボランティア活動で現場で頑張っている方たちがもっと前向きに活動できる上でのためになる話
- \*日本語教育推進法についてきちんと聞きたい
- \*継承語(母語)教育支援に関するテーマ
- \*異文化理解のコミュニケーションをどうするか
- \*本日の話にも出ていた、資格外活動に対する私達のスタンス